

2025 年 3 月期(2024 年度) 連結決算について

1. 2024 年度連結決算・・・前期から増収増益

コロナ禍を経て、航空旅客需要は回復から成長ステージへと移行しており、航空旅客数は 2019 年度以来 5 期ぶりに 4,000 万人を突破し、特に、国際線外国人旅客数は開港以来初めて 2,000 万人を超え、最高値を更新しました。また、前期はやや低調であった国際航空貨物量は、2024 年 4 月以降、前年同月を 12 カ月連続で上回り、好調に推移しています。これらの結果に加え、円安の効果により物販・飲食収入が好調であったこと等から、営業収益は 2,637 億円となり、4 期連続の増収となりました。

営業費用は、売上に連動する費用等の増加がありましたが、引き続きコストマネジメントの徹底に努めました。その結果、営業利益は前期の 129 億円から 293 億円増加の 422 億円、親会社株主に帰属する当期純利益は前期の 100 億円から 250 億円増加の 351 億円となりました。

(単位: 億円)

科目	2023 年度	2024 年度	増 減	
	実 績 A	実 績 B	金 額 B-A	% B/Ax100
営 業 収 益	2,169	2,637	468	121.6
営 業 費 用	2,039	2,214	175	108.6
営 業 利 益	129	422	293	326.1
経 常 利 益	106	404	297	378.5
親 会 社 株 主 に 帰 属 す る 当 期 純 利 益	100	351	250	349.3

(注) 決算数字は、単位未満を切り捨てて表示しています。

【参考】2024 年度航空取扱量実績

区分	2023 年度	2024 年度	増 減	
	実 績 A	実 績 B	数 量 B-A	% B/Ax100
航空機発着回数 (万回)	21.9	24.5	2.5	111.7
国際線	16.8	19.5	2.7	116.0
国内線	5.1	4.9	△0.1	97.5
航 空 旅 客 数 (万人)	3,525	4,077	551	115.6
国際線	2,744	3,337	592	121.6
国内線	781	739	△41	94.7
国際航空貨物量 (万トン)	184	196	12	106.7

(注) 航空取扱量は、単位未満を切り捨てて表示しています。

2. 2025 年度連結業績予想・・・増収減益

2025 年度の航空取扱量見通しは、発着回数及び旅客数ともに 2024 年度を上回ると想定しております。国際線の発着回数及び旅客数は中国及び東南アジア路線を中心とする増便が見込まれることから、2024 年度を上回ると想定しました。国内線の発着回数及び旅客数は、需要は底堅いものの、2024 年度冬ダイヤにおいて生じた減便が通期化する影響から 2024 年度をやや下回るものと想定しました。

一方、労務単価や諸物価の高騰の影響に加え、需要増への対応の必要性、安全を最優先に老朽化した施設の修繕・更新等を進めていくことからコスト増加を想定しており、結果として、営業収益は 5 期連続の増収を想定するものの、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益は前期比で減益となると想定しています。引き続きコストマネジメントを徹底し、業績予想の達成はもとより、利益の拡大に努めてまいります。

なお、実際の業績は、これら航空需要等経営環境の変化により大きく異なる結果となる可能性があります。

【参考】2025 年度の航空取扱量見通し及び業績予想

区 分	2024 年度	2025 年度	増 減	
	実 績	見通し	数 量	%
	A	B	B-A	B/Ax100
航空機発着回数（万回）	24.5	25.5	0.9	103.9
国際線	19.5	20.8	1.2	106.3
国内線	4.9	4.7	△0.2	94.3
航空旅客数（万人）	4,077	4,290	212	105.2
国際線	3,337	3,600	262	107.9
国内線	739	690	△49	93.3
国際航空貨物量（万トン）	196	202	5	102.6

（注）航空取扱量は、単位未満を切り捨てて表示しています。

（単位：億円）

科 目	2024 年度	2025 年度	増 減	
	実 績	予 想	金 額	%
	A	B	B-A	B/Ax100
営 業 収 益	2,637	2,762	124	104.7
営 業 費 用	2,214	2,478	263	111.9
営 業 利 益	422	283	△139	66.9
経 常 利 益	404	241	△163	59.6
親会社株主に帰属する 当 期 純 利 益	351	137	△214	39.0

（注）決算数字は、単位未満を切り捨てて表示しています。

3. セグメント別 2024 年度連結決算

(単位:億円)

	2023 年度	2024 年度	増 減	
	実績 A	実績 B	金 額 B-A	% B/Ax100
営 業 収 益 ※	2,169	2,637	468	121.6
空港運営事業	903	1,072	169	118.8
リテール事業	952	1,235	283	129.7
施設貸付事業	283	299	15	105.5
鉄 道 事 業	29	29	0	100.2
営 業 費 用	2,039	2,214	175	108.6
営 業 利 益	129	422	293	326.1
空港運営事業	△259	△91	167	—
リテール事業	272	405	132	148.6
施設貸付事業	110	103	△6	93.9
鉄 道 事 業	7	6	△0	93.4
経 常 利 益	106	404	297	378.5
親会社株主に帰属する 当 期 純 利 益	100	351	250	349.3

※ 外部顧客への売上高

(注) 決算数字は、単位未満を切り捨てて表示しています。

- 空港運営事業 : 国際線発着回数及び国際線旅客数が前年度を大幅に上回ったことから、空港使用料収入は前期比 12.8%増の 351 億円、旅客施設使用料収入は前期比 31.9%増の 451 億円と増収となり、営業収益は前期比 18.8%増の 1,072 億円、営業損失は 91 億円となりました。
- リテール事業 : 国際線旅客数が前年度を大幅に上回ったことに加え、円安傾向が続いたことから、子会社が運営する直営店舗の売上である物販・飲食収入は前期比 28.4%増の 948 億円、構内営業料収入は前期比 32.4%増の 128 億円の増収となり、営業収益は前期比 29.7%増の 1,235 億円、営業利益は前期比 48.6%増の 405 億円となりました。
- 施設貸付事業 : 旅客数の増加によって駐車場使用料収入が増加し、また第8貨物ビル供用開始等により土地建物等貸付料収入も増加したことから、営業収益は前期比 5.5%増の 299 億円、営業利益は前期比 6.1%減の 103 億円となりました。
- 鉄道事業 : 線路使用料収入等に変更がないことから、営業収益は 29 億円、営業利益は 6 億円と、いずれも前期並みとなりました。

4. セグメント別 2025 年度連結業績予想

(単位:億円)

	2024 年度	2025 年度	増 減	
	実績 A	予想 C	金額 C-B	% C/B×100
営 業 収 益 ※	2,637	2,762	124	104.7
空港運営事業	1,072	1,156	83	107.7
リテール事業	1,235	1,239	3	100.3
施設貸付事業	299	318	18	106.3
鉄 道 事 業	29	48	18	160.3
営 業 費 用	2,214	2,478	263	111.9
営 業 利 益	422	283	△139	66.9
空港運営事業	△91	△236	△144	-
リテール事業	405	394	△11	97.1
施設貸付事業	103	104	0	100.5
鉄 道 事 業	6	26	19	392.8
経 常 利 益	404	241	△163	59.6
親会社株主に帰属する 当 期 純 利 益	351	137	△214	39.0

※ 外部顧客への売上高

(注)決算数字は、単位未満を切り捨てて表示しています。

- 空港運営事業 : 国際線発着回数及び国際線旅客数が増加することを想定しており、これに伴い空港使用料収入及び旅客施設使用料収入等が増収となることから、営業収益は 2024 年度から 83 億円の増収の 1,156 億円となる一方、労務単価や諸物価の高騰に加え、需要増への対応の必要性、老朽化対策に伴うコスト増加を想定しており、営業損失は 2024 年度比 144 億円増加の 236 億円となる見通しです。
- リテール事業 : 国際線旅客数は 2024 年度を上回る見込みであるものの円安効果が一服することから、営業収益は 2024 年度並の 1,239 億円となり、営業利益は 2024 年度から 11 億円減益の 394 億円となる見通しです。
- 施設貸付事業 : 第 8 貨物ビルの供用も寄与して土地建物等貸付料収入が増収となり、営業収益は 2024 年度から 18 億円増収の 318 億円となる一方、需要増への対応の必要性、老朽化対策に伴うコスト増加を想定しており、営業利益は 2024 年度並みの 104 億円となる見通しです。
- 鉄道事業 : 料金改定により線路使用料収入が増収となり、営業収益が 2024 年度から 18 億円増収の 48 億円、営業利益は 2024 年度から 19 億円増益の 26 億円となる見通しです。

5. 財政状態

(注)決算数字は、単位未満を切り捨てて表示しています。

<連結貸借対照表>

(単位:億円)

科 目	2023 年度期末	2024 年度期末	増 減	
	実 績	実 績	金 額	%
流 動 資 産	3,585	4,741	1,156	132.3
固 定 資 産	8,833	9,367	533	106.0
資 産 合 計	12,418	14,109	1,690	113.6
流 動 負 債	1,161	1,132	△28	97.6
固 定 負 債	8,763	10,173	1,410	116.1
負 債 合 計	9,924	11,306	1,382	113.9
純 資 産 合 計	2,494	2,802	308	112.4

- 資産合計は、前期末比 13.6%増の 1 兆 4,109 億円となりました。
- 負債合計は、前期末比 13.9%増の 1 兆 1,306 億円となりました。
- 純資産合計は、前期末比 12.4%増の 2,802 億円。自己資本比率は、当期純利益を計上したことにより自己資本は増加したものの、国からの財政融資資金の借入により資産合計が増加したことから、前期末 19.4%から 0.1 ポイント減少し 19.3%となりました。

<参考:長期債務の推移>

科 目	2023 年度 期末	2024 年度 期末	増 減		平均金利	
	実 績	実 績	金 額	%	2023 年度 期末	2024 年度 期末
有利子債務	8,660	9,881	1,221	114.1	0.50%	0.68%
社債	4,606	4,296	△310	93.3	0.43%	0.47%
長期借入金※	4,054	5,585	1,531	137.8	0.59%	0.84%
無利子債務	324	424	100	130.9	—	—
長期借入金	324	424	100	130.9	—	—
合 計	8,984	10,305	1,321	114.7		

※財政融資資金の借入残高(2023 年度期末 4,000 億円、2024 年度期末 5,544 億円)を含む

6. キャッシュ・フローの状況

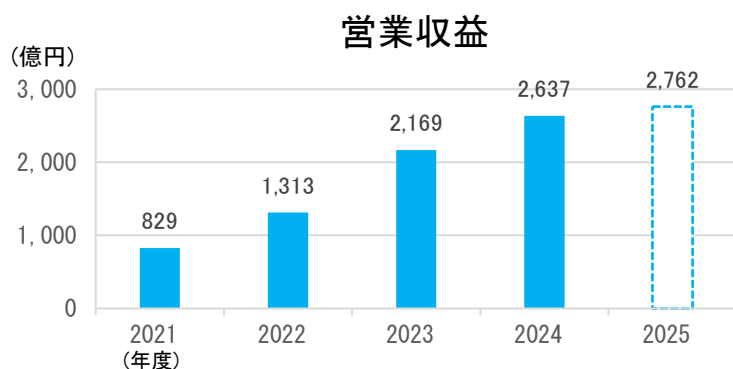
科 目	2023 年度	2024 年度	増減
	実 績	実 績	金 額
営業活動によるキャッシュ・フロー	621	678	57
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,123	△81	△1,042
フリー・キャッシュ・フロー	△501	597	1,099
財務活動によるキャッシュ・フロー	△395	1,317	1,712

- フリー・キャッシュ・フローは、597 億円のキャッシュ・イン(前期比 1,099 億円の改善)となりました。
 - 営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前当期純利益が増加したこと等により、前期比 57 億円増の 678 億円のキャッシュ・インとなりました。
 - 投資活動によるキャッシュ・フローは、固定資産の取得による支出の増加があったものの、定期預金の預入による支出の減少等により、前期比 1,042 億円減の 81 億円のキャッシュ・アウトとなりました。
 - 財務活動によるキャッシュ・フローは、長期借入金による収入等により、前期は 395 億円のキャッシュ・アウトであったのに対し、1,317 億円のキャッシュ・インとなりました。

参考

【連結決算推移】 2025 年度通期は予想

(注) 決算数字は、単位未満を切り捨てて表示しています。

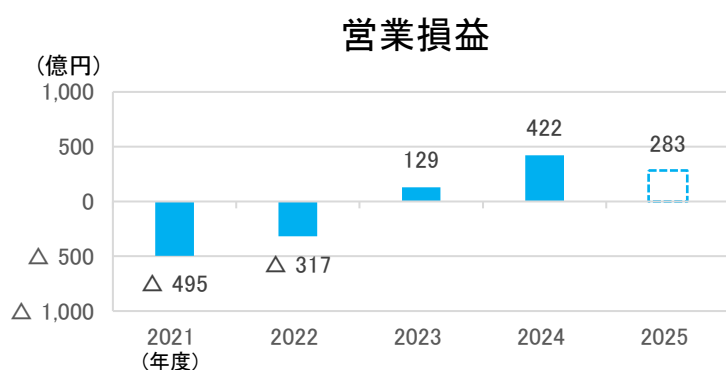


＜2024 年度＞

・4 期連続の増収

＜2025 年度通期予想＞

・5 期連続の増収となる見通し

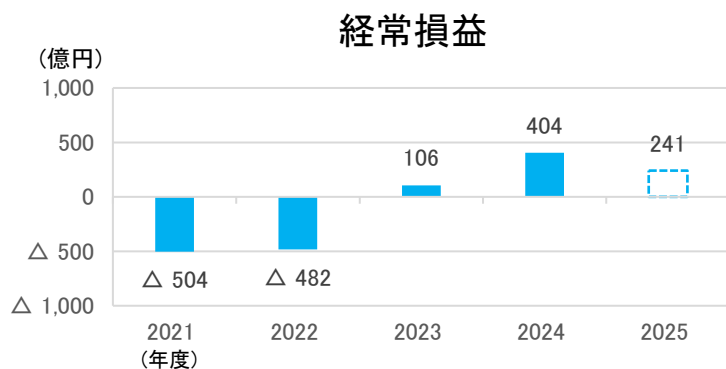


＜2024 年度＞

・4 期連続の業績改善

＜2025 年度通期予想＞

・減益となる見通し

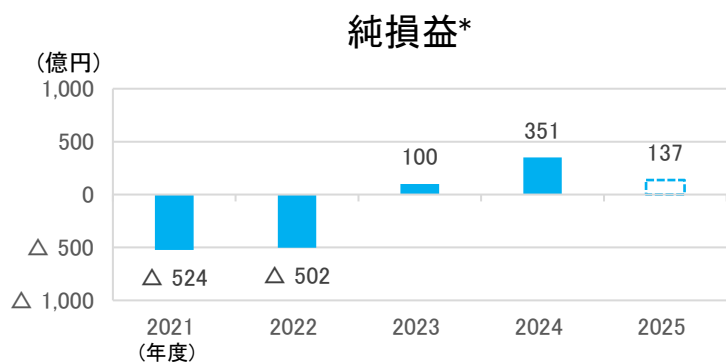


＜2024 年度＞

・4 期連続業績改善

＜2025 年度通期予想＞

・減益となる見通し



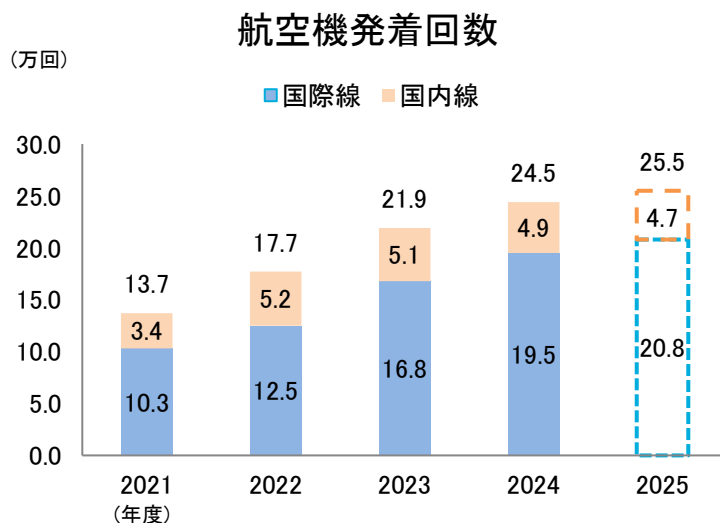
＜2024 年度＞

・4 期連続業績改善

＜2025 年度通期予想＞

・減益となる見通し

*親会社株主に帰属する当期純損益

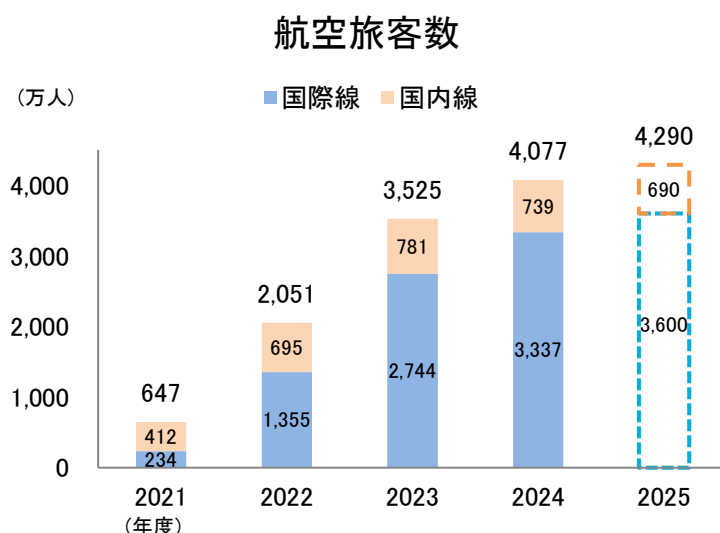


＜2024 年度＞

- ・全体：4 期連続の増加
- ・国際線：4 期連続の増加
- ・国内線：2 期連続の減少

＜2025 年度通期見通し＞

- ・全体：5 期連続の増加となる見通し
- ・国際線：5 期連続の増加となる見通し
- ・国内線：3 期連続の減少となる見通し



＜2024 年度＞

- ・全体：4 期連続の増加
- ・国際線：4 期連続の増加
- ・国内線：4 期ぶりの減少

＜2025 年度通期見通し＞

- ・全体：5 期連続の増加となる見通し
- ・国際線：5 期連続の増加となる見通し
- ・国内線：2 期連続の減少となる見通し